



九条の会・いすみ市

会 行 報 30号
発 行 日 2023年 1月28日
九条の会・いすみ市
運営委員会

日本国憲法こそは英知の結集だ 戦争反対の声を広げ、政府に決意を届けよう！

昨年暮れの閣議決定（戦後日本の安全保障政策の大転換―敵基地攻撃能力確保、防衛予算増大方針）は、2014年の7月14日閣議決定で集団的自衛権を決めたやり方と同様である。内容についての批判は資料2が詳しい。

閣議決定では法律を変えられない。法律の強行で安保法制ができて憲法は変更できない。日々のニュースを聴き、見てみると、憲法前文や九条や国会の存在すらない、憲法のすべがない国にいるのかと思ってしまう。

今年に入り政府は、日米安全保障協議委員会（2プラス2）の共同発表文書と日米首脳会談を行い、歴史的安保政策の大転換の安保条約の実質的変更を国会の審議無しに行い成果だと誇る。憲法と同様条約は最高法規として尊重される。条約の拘束力により、後世の国民がどのように苦しめられたかを他国や日本の歴史から思い起こそう。

日本政府は、国連で「法の支配という理念の下に結集しよう」と呼びかける。政府は「日本国憲法という理念の下に結集」しない。国の最高法規である憲法に従わない法の支配とはなにか。政府の独裁は法の支配の否定だ。独裁を許しては悔いを残す。

成人の日について1月には語られることが多いが、成年大人とはどんな人だろう。冷静に長期的視野で社会と人生を考えられることが基本ではないか。ウクライナに対するロシアの侵略が起きた。みんなが驚いたが、少し考えると世界では様々な紛争が続いており、飢えて死ぬ人もたくさんいる。これらの問題を考えて先の**世界大戦後、国際連合がつくられ、日本国憲法がつくられた。英知だと思う。**国際連合は常任理事国の横暴により機能不全の状態も生まれるが、世界全体の声を結集して核兵器禁止条約を作り上げてきたように大きな力を発揮できる場だ。改善することは必要なことだが無視することからはじめられない。国連憲章的発想で地域協力を進め、世界の多くの国が日本国憲法の平和主義を理想としてもち、活かしていけば世界は変わる。核兵器の存在する時代の大人は、せめて自国政府が戦争をしない指導者を選ぶことから始めよう。攻撃された場合に逃げる学習より、**戦争させない行動こそ、政府は国家として国民の決意が求められるというが、戦争反対の声を届けよう。**

コロナ禍でも、解釈では変えられないからと本腰で憲法改正準備が進められている。改憲反対の署名は続いています。九条の会会員を増やしましょう。国葬反対の声は政権の意図を挫きました。国民の声を政権は恐れています。

3の資料は改憲内容をわかりやすく伝えるものです。
是非ご活用ください。必要数をお渡しします。

新年度役員は再任されました。会計報告 別紙は承認されました。
新年の会費をお願いします。

大切な資料3点をお渡しします。
ご意見をお寄せください。

1. 会計報告
2. 「敵基地攻撃能力」ないし「反撃能力」の保有に反対する意見書
日弁連 公式資料より
3. 鎌倉・九条の会 パンフレット

2023年1月28日
九条の会・いすみ市 運営委員会





新年に 思い寄せて

1日から3日間は晴れたので一時間ほど散歩。2022年12月20日NHK映像の世紀をみて思った。1987年のゴルバチョフ・レーガン会談での核兵器縮小合意、人類の理性と英知が復活した感じから現在の核使用、軍拡競争へ変転。

安保法制ができてから憲法は変わりましたといわんばかりの違憲解釈で、軍拡と軍事費増強が続く。憲法を変える動きも急だ。この拡大は戦争への道。国葬反対の声をあげて政権の企て狂わした力を信じたい。今年も人類の一員として日本国憲法を活かした社会を伝え続けたい。

近藤

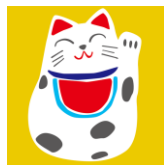
2023年は、どんな年になるだろうか？
防衛費10兆8千億円は、私たちを本当に守ってくれるのだろうか？
全国に張り巡らされた米軍基地は、敵基地攻撃能力を保有すれば一番最初に狙われるのではないだろうか？

外交努力によって、平和を守ってほしい。
敵基地攻撃なんて絶対にやめてほしい。
九条のある国でこんな政治は考えられない！

前田



学習会の予定



場 所 大原文化センター

資料代 100円

開催日 以下の土曜日

2月25日 3月25日 4月22日

時 間 AM10:00～12:00

学習会課題、様々な角度で憲法を考えます
課題など提案歓迎

* 会員の皆様、どうぞ活動へのご助言やご要望をお寄せください。よろしくお願いいたします。

①基本に立ち返る

- ・ 九条の会ブックレット（新しいブックレット続行）
- ・ 日弁連「敵基地攻撃能力」ないし「反撃能力」の保有に反対する意見書

②改憲4項目 自民党改憲案の問題点と危険性 解説パンフレット（赤・ピンク表紙）

- ・ 憲法条文など資料はお持ちください

③鎌倉・九条の会 パンフレット

冷戦時代といわれた東西対立の時代、米のレーガンとソ連ゴルバチョフの間で、1987年、史上初、中距離ミサイル全廃条約が調印され、核兵力五割削減交渉が成立しました。米ソは、前年から互いの信頼の元、交渉を続けた結果です。その後、1991年、ソビエト崩壊、条約は引き継がれますが、西側NATO拡大に反発するロシアは巡航ミサイル採用など条約違反の指摘、2019年、トランプの時にこの条約は破棄通告、元の木阿弥となりました。

核保有国が使用すれば現代の戦争に勝者はいないといわれ、核の冬の時代で地球は終わります。交渉で平和を追求する以外道はありません。日本は特に歴史の教訓として平和の道をとるべきです。これまでの「専守防衛」から「敵基地攻撃能力」ないし「反撃能力」を有する路線を岸田内閣は、閣議決定で決めています。大軍拡・大増税に反対し、「戦争は嫌だ！」と声をあげましょう。

和久 伸一

年明け早々、コロナ感染第8波で医療逼迫、救急搬送の受け入れできず、身近にも感染したという声があちこちから聞こえてくる。

コロナ蔓延や物価高騰で国民生活は厳しさが増しているというのに、岸田政権は台湾有事を想定した軍事拡大、増税に余念なく、反撃能力保有し沖縄を含めた南西諸島基地強化を進行している。

昨年、私たちは居ても立っても居られないと戦争反対、国葬反対と街頭宣伝行動をした。さて、今年は？年始早々政治は不穏な幕開けだが、今こそ九条！存在意義ある活動をしていきたいと思う。

川島 る美



岸田政権退場！
コロナ収束！
無病息災！